

とりあえず、食ってみ？

魚切建輝
川崎友生
見浪啓史

目次

- ▶ 記事紹介
- ▶ ニートリアについて
- ▶ 現状
- ▶ 問題意識
- ▶ 政策提案
- ▶ まとめ

ヌートリア、京を「侵食」、 外来大型ネズミ、川で繁殖、農作物被害、駆除追いつかず。

行政「エサやりやめて」

南米原産の大型ネズミで、特定外来生物の「ヌートリア」が淀川水系で大量繁殖している。温暖化の影響もあってか生息域を大阪府内の淀川から、上流に位置する鴨川や宇治川（ともに京都府）に拡大。周辺では農作物被害が出ている。エサを与える観光客や住民もいるが、駆除に力を入れる京都市は「繁殖を助長するのでエサはやらないで」と呼び掛けている。「ヌートリアおるかな?」「パン食べてる!めっちゃかわいい」京阪本線出町柳駅（京都市）にほど近い中州「鴨川デルタ」。近くに住む主婦（42）が食パンをちぎって投げ込むと、ヌートリアが巣穴から顔を出し、前脚で持ってもぐもぐ。周囲では地元の大学生らが撮影するなどして、その様子を楽しんでいた。川には「ヌートリアに餌を与えないでください」と記した立て看板。ただ、この主婦は「外来生物だと知ってはいるが、住民に愛されている。エサやりは毎日の習慣」。鴨川で目撃され始めたのは約2年前。生態を調べている京都精華大非常勤講師（保全生態学）の村上興正氏（74）は「淀川には数十年前からいたが、温暖化の影響もあり徐々に北上。住民や観光客がエサを与えるようになり定着した」と指摘する。9月の台風18号による大增水でいったん姿が見られなくなったが、再び出沒するようになった。ユーモラスな外見とは裏腹に、京都府内の農業被害は深刻化している。桂川にも生息し、京都市では周辺の田畑で毎年約200万円の被害が発生。宇治川が流れる宇治市や亀岡市も被害が出ている。京都市伏見区の農家、島田定重さん（63）は今夏、カボチャを数十個食い荒らされた。「少しずつかじられ全く売り物にならなかった」と嘆く。侵入防止用の金網やネットを設置した田畑もあるが、かいくぐって侵入する。京都市だけで昨年45匹を捕獲したが、追いつかないという。鴨川周辺に田畑は少ないが、「繁殖が続くと上流の賀茂川や高野川にも出沒するようになり、被害が膨らむ恐れがある」（京都市林業振興課）。各自治体の担当者は「岡山のような被害拡大は防がねば」と口をそろえる。同県のヌートリアによる農業被害額は2012年で約1700万円。同年に約2800匹を捕獲するなど駆除しているが、被害額は毎年1千万～2千万円台にのぼる。被害を抑えようと、京都市は年内に外来生物法に基づく防除計画策定を目指す。これまでは農業被害が発生してからでないと捕獲できなかったが、計画を申請して国から認定されれば、自由に捕獲できるようになる。市環境管理課の担当者は「生態系も崩れかねないため、被害の実態などの認知度を高め、エサやりはやめてもらわねば」と話している。

▼ヌートリア 南米原産の大型ネズミで体長は50～70センチ。尾も体長と同じくらい長い。体重は6～9キロ程度。体毛は茶褐色、目と耳は小さく鼻が大きい。戦前、軍服の毛皮向けに国内各地で養殖され、戦後の養殖場閉鎖に伴い放され、野生化した。主に山奥に生息していたが、1970年代ごろに、一部で個体を捕獲してペットとして飼う人が増え、都市部にも広がった。現在は西日本を中心に全国に生息している。標高が低く、流れが緩やかな川などの水際に生息する。夜行性で、イネなどの水生植物やカボチャ、ニンジンなどの農作物を好んで食べる。年に数回繁殖し、130日程度の妊娠期間を経て5匹程度出産する。同じ南米原産の大型ネズミの仲間、カピバラと混同されやすいが、カピバラにはヌートリアのような長い尾はなく、体長1メートル以上になる。(2013/11/02 日本経済新聞より)

記事要約

- ▶ 外来種の大型ネズミの「ヌートリア」が淀川から宇治川水域で大量繁殖している。
- ▶ 観光客や住民には人気だが、農作物被害や固有の生態系破壊等の問題が深刻化している。
- ▶ 行政は被害拡大を防ぐため、エサやりの禁止の呼びかけや捕獲等を行っている。

ヌートリアについて



- ▶ ネズミの一種
- ▶ 別名：沼狸
- ▶ 南アメリカ原産（日本には本来生息しない）
- ▶ 池・沼や流れの弱い河川の土手などに巣穴を掘って生息する
- ▶ 主食：水生植物

ヌートリア 画像
出典：「ヌートリアとは」
<http://www.h4.dion.ne.jp/~hoso.com/nutriadata.htm>
最終閲覧日：2014.4.8

ヌートリアについて

- ▶ もともとは軍服の毛皮用として輸入された
- ▶ 日本では侵略的外来種としての問題
イネやオオムギ、葉野菜などに対する農業被害
ベッコウトンボなど、固有生態系の破壊

ヌートリアによる被害

- ▶ 日本では岡山県に最も多く生息していて被害も大きい
- ▶ 特に児島湾干拓地一帯では縦横に排水溝がつくられ、水性植物が生い茂るなど生息条件に恵まれており、かなり多数が生息している。
→ イネや水路ぞいの野菜に大きな被害を与えるため、毎年
2000～ 3000頭が捕殺されている。

現状 住民による餌付け

- ▶ 可愛い！
 - ▶ 毎日の習慣
 - ▶ 住民に愛されている
- 餌付けをやめない。



繁殖を助長

現状 農業被害

- ▶ 京都市毎年約200万円
 - ▶ 岡山県毎年1000万～2000万円台
- 各所に被害が出ている



ヌートリアによる水稻の食害



ヌートリアによるスイカ（左）とダイコン（右）の食害

農業被害の推移

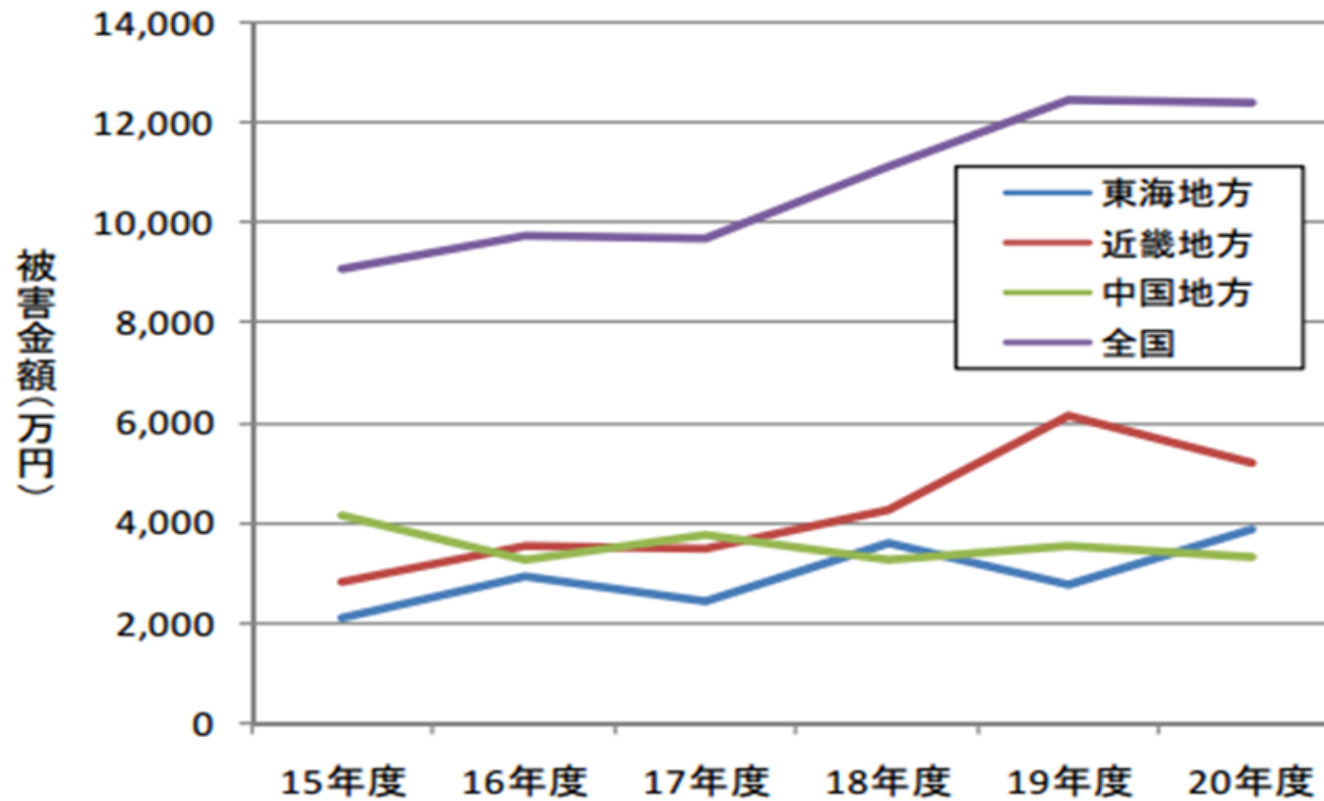


図 4-2 ノートリアによる農作物被害金額の推移
(農林水産省生産局農業生産支援課資料より)

生態系への影響

- ▶ 水生植物や二枚貝を採食するため、タナゴ類をはじめとする魚類など、在来の生態系への影響



ヌートリアにより食害を受けたと考えられるミクリ（稀少植物）



ヌートリアにより食害を受けたと考えられるヨシ（水辺の代表植物）

写真提供（2枚とも）：西川博章

その他の被害

海外では、ヌートリアが巣穴を掘ることで河川の堤防などが決壊した事例も。



水田の畦の破壊状況



ため池の堤体に作られた巣穴

http://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/107080_342534_misc.pdf

現状における対策

(1) 誘引条件の排除（生ゴミ、未収穫物）

→餌となりうるものを放置しない、農作物の早めの収穫

(2) 柵の設置

→電気柵など

(3) 営巣場所・隠れ場所の排除

→水田周辺の見通しをよくするなど

(4) 捕獲駆除

現状

- ▶ こうした侵入防止柵、捕獲駆除、除草などの対策方法は、ヌートリアの被害対策として有効となりうる。
- ▶ しかしこれらは農業従事者等が必要に応じて個別に行っている小規模な場合がほとんど

問題

住民による
餌付け

農作物被害

駆除が
追い付かない

生態系への影響

問題意識

- ▶ 現状と問題を踏まえて・・・

より駆除を進めていく
餌付けを止めさせる

必要がある。

政策提案

①地域住民への研修

②食用・毛皮用として利用

前提として...

ヌートリアの駆除に乗り出す行政と駆除に抵抗を感じる人々の間で対立がある

⇒ヌートリアの及ぼす害を軽視している

駆除に乗り出すには防除計画の策定・国からの認可が必要

⇒根拠や危害を明確に示し、理解を得る必要がある

①講習

ヌートリアの捕獲には狩猟免許が必要

⇒鳥獣保護法等の規定

行政が防除計画を策定すれば、講習を受けると誰でも捕獲可能

⇒外来生物法に基づく制度

鳥取県での取り組み

ヌートリア：県内減少 半日研修で捕獲可が奏功 / 鳥取

2014.02.28 毎日新聞 地方版 / 鳥取

総務省鳥取行政評価事務所（鳥取市）などは27日、特定外来生物の捕獲状況をまとめた調査結果を公表した。県内で2012年度に捕獲されたヌートリア＝写真・県提供＝は1655頭（前年度比222頭減）。中でも、半日程度の研修を受ければ、捕獲が可能になる「外来生物法に基づく確認・認定」制度を導入している鳥取市など12市町の捕獲数は、前年度比507頭減の750頭と大幅に減少した。同制度の導入で、全体数の減少などの効果が出ているとみられるという。

同事務所は、生態系や農作物への被害が深刻な外来生物の捕獲状況を把握するため、昨年7月～今年2月、中国四国管区行政評価局（広島市）などと合同で調査を実施した。恵良和宏評価監視官は「外来生物法に基づく制度は狩猟免許が不要で、研修のみでヌートリアを捕獲できる。各自治体は積極的に導入してほしい」と話す。

県鳥獣対策センター（八頭町）によると、ヌートリアは、県内全域の水辺に生息し、水稻や野菜などに12年度で約220万円の被害が出ている。1頭3000円（県と市町村が折半）の捕獲奨励金が支給されている。【加藤結花】

①講習

講習会の呼びかけを強化する

⇒捕獲可能者を増やす

奨励金の設定：一頭当たり2000～3000円程度

⇒捕獲へのインセンティブを付与



②食肉として利用

- ▶ ヌートリアはもともと第二次世界大戦時に軍服の毛皮用として輸入された生物
- ▶ 食肉としても非常に有用性がある！（絶品との声も）



ヌートリアの食肉
出典：ヌートリアを食べてみた
http://stat.ameba.jp/user_images/20120210/00/yohji46/99/39/j/t02200391_0480085411784785384.jpg
最終閲覧日：2014. 4. 8

②食肉として利用

捕獲したヌートリアを行政に委託

⇒行政が食肉として販売する

◎最近ではシカ肉料理などジビエが流行っている



味をPRできればブームを起こせる可能性がある！

費用検討

コスト：講習費、輸送費、広告費、奨励金

収入：販売価格×頭数

価格：3000円/kg

平均3kg/頭を食肉として取れると仮定

→10000円/頭とする

奨励金：1000～3000円→2000円

費用検討

10000円（1頭当たり）－2000円（奨励金）＝8000円

⇒8000円×頭数分の収益で諸費用に充てることができる！



被害農家への補助金・市の資金にも充てられる可能性がある！

まとめ

- ▶ まずは反対市民の理解を得ることが先決
- ▶ 講習を受けるだけで捕獲可能&設備費用もそれほどかからない

⇒ハードルはあまり高くない

- ▶ 食肉としての有用性・ポテンシャルがある
- ▶ 法的な問題をクリアしなければならないのが懸案事項

参考文献

京都府HP <http://www.pref.kyoto.jp/index.html>

鳥取県HP <http://www.pref.tottori.lg.jp/>

田舎で暮らそう！ <http://homepage1.nifty.com/countrylife/index.htm>

環境省 <http://www.env.go.jp/>

食糧捕獲作戦 <http://capturefood.blog83.fc2.com/>

稲美野ヌートリア通信

<http://www.h4.dion.ne.jp/~hosocom/index.html>

鳥獣対策の知恵袋 <http://www.choujuhigai-blog.com/>

ヌートリア対策マニュアル

http://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/107080_342534_misc.pdf

ヌートリア（PDF：594KB） - 農林水産省

http://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/h_manual/pdf/data5.pdf